

学校保健委員会を開きました!!

12月7日(木)に高島学園の学校保健委員会を開催しました。学校医の先生方をお招きし、定期健康診断や環境衛生検査についてご意見をいただきました。また、高島学園の「タブレット導入後の学習」「携帯電話の利用状況のアンケート結果」を紹介し、取り組みの内容を共有したり、意見交流をしたりしました。

定期健康診断の結果より

- 小学校1・2・3年生の視力 A(1.0以上)の人数が全国平均より下回っている。
- むし歯にかかっている児童生徒が、小学校5年生以外の全学年で、全国平均を上回っている。
- 歯科健康診断の結果、病院の受診につながっている人は少ない。受診率:小学校は55%、中学校は50%。

アンケートを取りました! 「携帯電話と高島学園の子どもたち」

自分専用の携帯を持っている
小学生約4割 中学生約7割

平日の携帯電話の利用時間
小学生3時間以上25%
中学生3時間以上39%

小・中学校ともに携帯電話を使うときの
家庭でのルールが「ない」約6割!

「携帯電話を使って困ったこと」
小学生は「ない」100%、中学生は「ある」が10%

携帯電話を使うときの家庭でのルール



小学生「時間を決める」「ギガ数の規制」「トラブル未然防止」
中学生「時間を決める」「親の監視のもと」「アプリの使い方」

困ったことの具体例

「友達と意味の取り違えて喧嘩に・・・。」
「伝えたいことが伝わらなかった。」
「使い過ぎて目が悪くなった。」



Q. 携帯電話を使って起こりうる危険はどんなことだと思いますか。

- 小学生 携帯電話を持っている、家族と共有している子・・・「寝不足になる」「携帯電話を使うことをやめられなくなる」
→携帯電話を使うことで、生活に支障がでるかもしれないと感じている。
携帯電話を持っていない子・・・「詐欺にあう」「お金のトラブル」
→携帯電話を使うことで、金銭トラブルに巻き込まれるかもしれないというイメージを持っている。
- 中学生 携帯電話を持っている、家族と共有している子・・・「依存してしまう」「視力が悪くなる」
携帯電話を持っていない子・・・「依存してしまう」「視力が悪くなる」
→携帯電話の所持関係なく、携帯電話を使うことで、健康面に問題が出るかもしれないと感じている。



また、自分専用の携帯電話を持つのに最適な時期を聞くと、
中学生によると携帯を持ちたい年齢は「高校生から」が60%・・・中学生で持つには早いと感じている様子。

意見交流(一部抜粋)

- 今後、スマホはより手放せないものになっていく。分別する力や情報モラル力をつけることが大事。
- 子どもの前でスマホをずっと触っていることがないよう、保護者が子どもの見本となる姿を見せる。
- 家庭でのルールは、一方的なものでは無く、子どもの納得感のあるルール作りをする。